| ２．事業の概要と成果 | |
|---|---|
| （１）上位目標の達成度 | **上位目標**：ホアビン省タンラック郡の小規模農家が生産者グループをつくり、有機農産物の生産技術を改善させながら、生産・品質管理のための仕組みを構築する。<br><br>**達成度**：ホアビン省タンラック郡の小規模農家が 48 の生産者グループ（野菜、稲、地豚、地鶏、魚）を作り、累計で 730 名が有機農業技術研修を受けた。うち、20 グループが有機農産物の生産・品質管理のための参加型保証制度（以下、PGS と略す）の構築に取り組んでいる。また、野菜生産者グループは 86.6%、稲生産者グループは 75.8%、地豚生産者グループは 88.4%、地鶏生産者グループは 76.4%、魚生産者グループは 85%のメンバーが研修で学んだ技術を実践している。以上より、生産者グループが作られ、有機農産物の生産技術の改善に取り組んでいるものの、生産・品質管理のための仕組みがまだ構築されていない点において、上位目標は達成されていない。 |
| （２）事業内容 | 実施した事業内容について、以下に記述する。<br><br>(イ) 組織づくりと経営、生産・品質の管理<br>キックオフ会合開催後、対象 3 村に 48 の生産者グループが設立された。その後、グループ内の調整がつかない等の理由で複数のグループが解散し、2012 年 10 月の時点で 39 グループが生産を行っている。当初の 48 グループのうち、27 グループで栽培計画が作られた。また、20 グループが PGS の構築に取り組んでいる。20 グループの内訳はナムソン村 2 グループ、ディックザオ村 13 グループ、フーヴィン村 5 グループで、生産物別にみると、野菜が 6 グループ（4.35ha、42 名）、稲が 3 グループ（6.3ha、30 名）、地豚が 8 グループ（53 名が 408 頭を肥育）、地鶏が 2 グループ（12 名が 490 羽を肥育）、魚が 1 グループ（8 名が 4,230 匹を肥育）である。<br><br>(ロ) 有機農業技術・組織経営、生産・品質管理に関する研修：<br>対象 3 村の生産者グループのメンバーを対象として、「有機農業」のコンセプト、病害虫管理、土の大切さと有機肥料について、野菜栽培、地豚肥育研修、地鶏肥育、魚肥育などの有機農業技術研修と PGS に関する研修および会計を含めたグループ管理のための研修を合計 25 回開催し、累計で 730 名が参加した。研修ごとに理解度テストを実施し、その結果を元に事業の評価を行った。<br><br>(ハ) マーケティング・プロモーション<br>タンラック郡、ホアビン、ハノイ市にある複数のレストランや有機農産物の販売を行う業者、消費者グループに対し、生産者グループの取り組みや PGS について紹介し、理解と協力を促した。また、事業内容を周知するためのポスター兼カレンダーを作成し、対象 3 村の全世帯、タンラック郡のレストラン、関心を持つ地域の農家や行政機関などへ配布した。さらに、2012 年 9 月に本事業に関心を持つハノイ市内の消費者 27 名がタンラック郡ディックザオ村を訪問し、生産者グループと交流を行った。まず、消費者が地豚を生産しているメンバーを訪問し、実際にどのような環境で肥育されているのかを確認した。その後、 |

| | |
|---|---|
| | 有機農業に関するクイズやハノイの市場で購入した野菜・豚肉・鶏肉とディックザオ村で生産されたものとの食べ比べを実施した。参加者からは「有機農産物の味の良さを改めて実感した」「有機農業についてより深く学ぶ場となった」といった感想が出された。<br><br>(ニ) キックオフ会合・評価会合・交流会・月例会合：<br>【キックオフ会合】<br>事業概要を広く周知し、カンボジア・日本の有機農産物の生産・流通に関する先駆的な実践例を紹介し、当該事業に活かしていくためのキックオフ会合を2011 年 11 月に対象 3 村およびタンラック郡人民委員会で合計 4 回開催した。参加者は事業内容に関心を持つ農家、各行政村の事業管理委員会、ホアビン省およびタンラック郡の農業機関職員、ベンチェ省の農業機関職員および行政職員の代表などで、合計 280 名が出席した。当初はタイより 2 名が参加する予定だったが、洪水の影響により参加できなかった。カンボジアから 2 名（NGO、有機農家）、日本から 2 名（有機農家、有機農産物流通会社）が実施している事業について経験を語った。特に日本の有機農家の方が農薬を大量に使い身体を壊したことを機に「農産物が安全なのは当たり前。美味しくなければ売れない」と有機農業に取り組み始め、収入がほとんどない中、土壌と食味の関係について研究を重ね、10 年後に京都の高級料亭に高く評価されるようになるまでの経験が参加者の心を捉えた。また、タンラック郡人民委員会の副主席は「日本やカンボジアの経験を学び、是非、タンラック郡で有機農業を発展させ、環境を守りながら、農家の暮らしを改善していきたい」と話した。<br><br>【月例会合】<br>対象 3 村で合計 27 回の月例会合を開催し、事業管理委員会および生産者グループ代表と事業の進捗状況や生産・販売状況について確認を行い、課題の解決策について話し合った。<br><br>【評価会合】<br>事業の成果と課題を確認し、今後に活かしていくための評価会合を 2012 年 10 月に対象 3 村とタンラック郡人民委員会で合計 4 回開催した。参加者は生産者グループ、事業内容に関心を持つ農家、ホアビン省およびタンラック郡の農業機関職員、対象 3 村以外のタンラック郡内 21 の町と村の代表、合計 237 名が出席した。参加したマンドゥック村の代表は「有機農産物の生産は大変だが、消費者のニーズは高い。私達の村でも推進していきたい」と話した。また、ホアビン省植物防疫支局長は「有機農業はハードルが高い。しかし、地域の環境保全や農家の生活改善を考えると、非常に魅力的だ。こうした流れが少しずつ大きくなっていくことを期待したい」と述べた。<br><br>【他地域の生産者グループなどとの意見交換】<br>類似の取り組みを行っているホアビン省ルオンソン郡やハノイ市ソクソン郡の生産者グループ、北部農業・農村開発短期大学、農民同盟の主導によって発足したベトナム有機農業協会の会合への参加を通じて、有機農業の技術および PGS について意見交換を行い、タンラック郡の生産者グループへ共有した。 |

| | |
|---|---|
| （３）達成された効果 | 「期待される効果」の達成度について以下に記す。<br><br>(イ) 3 行政村内に生産者グループが作られ、70%のグループで栽培計画と参加型保証制度（PGS）が構築される。<br>⇒**未達成**。48 生産者グループのうち、27 グループ（56.2%）が栽培計画を立案した。また、20 グループ（41.6%）が PGS の構築に取り組んでいる。<br><br>(ロ) 有機農業技術研修に参加した生産者グループ・メンバーの 70%が研修内容を理解する。理解度テストを実施し、成果を測る。<br>⇒**達成**。研修実施前と実施後に理解度を測るためのテストを行った結果、平均して研修に参加した生産者グループのメンバーの 72.7%が研修内容を理解していた。<br><br>(ハ) 有機農業技術を学んだ生産者グループ･メンバーの 70%が技術を実践する。<br>⇒**達成**。生産している農産物ごとに評価シートを作成し、事業終了前に PGS 構築に取り組んでいる 20 の生産者グループへ配布した。約 300 名の生産者グループ･メンバーのうち､173 名が回答した｡その結果､野菜生産者グループは 86.6%、稲生産者グループは 75.8%、地豚生産者グループは 88.4%、地鶏生産者グループは 76.4%、魚生産者グループは 85%が研修で学んだ技術を実践していた。<br><br>(ニ) 消費者やレストラン・ホテル関係者に有機農産物について紹介し、少なくとも 3 件が取引を検討する。<br>⇒**達成**。ホアビン省タンラック郡にて 2 箇所のレストランと 1 箇所の卸業者、ハノイで有機農産物を販売している 1 業者がタンラック郡の生産者グループから農産物を購入することを検討している。<br><br>(ホ) タンラック郡内の他行政村やホアビン省内他郡の関係者の関心が高まる。キックオフ会合と評価会合で議事録を取り、関係者の意見の変化を確認することで指標とする。<br>⇒**達成**。キックオフ会合で事業内容を周知した後、タンラック郡内 2 村から事業へ参加したいという申し出があった。また、PGS の構築にあたり、20 の生産者グループや流通業者の他、タンラック郡農林業普及所、植物防疫所、農民同盟の代表が参加している。さらに、評価会合では 1 村が有機農業を推進していきたいと話した。この他、ベンチェ省でも類似の事業を実施していく検討がなされている。 |
| （４）持続発展性 | 2012 年 12 月までに 20 の生産者グループ、行政や農業機関の職員、流通業者などから成るインター・グループが作られ、協働で PGS の構築に取り組んでいる。2013 年にはインター・グループが有機農産物の生産・品質の検査、技術向上、マーケティングを実施し、流通業者へ販売を行う予定である。インター・グループはメンバーの自発的な参加によって成り立ち､PGS を実質的に運営していくことから、将来の持続発展性が期待できる。 |